

今年度の環境教育ワーキンググループの活動内容

1 情報の収集と提供

学校における実践事例の情報を取材し、とりまとめ後、ホームページ（kushiro-ee.jp）へ掲載を行う。

表 1 .掲載を予定している実践事例

学校名	実施時間	学年	実施年度	備考
釧路市立青葉小学校	総合	3～4 学年	H20～21	3 学年時より 2 年間の学習として実施
釧路市立鶴野小学校	総合	4 学年	H22	湿原に隣接しており、例年実施。
釧路町立富原小学校	道徳	6 学年	H22	道徳全道研究会の機会に実施。

2 教員研修の実施

釧路教育研究センターと連携し、釧路湿原に対する新たな視点・気づきを教員と共有し、湿原の教育的な価値を捉えなおすことを目的とする教員研修を実施した。

(1) 研修概要

- 第 1 回 研修講座「環境教育 ～自然再生の現場から湿原を考える～」
- ・実施日時：2010 年 7 月 1 日（木）9 時 30 分集合 16 時解散
 - ・参加教員：釧路市内の小学校、中学校教員 6 名
 - ・実施内容：自然再生事業実施現場の見学（久著呂地区湿原再生事業地）
釧路湿原野生生物保護センターにおける座学（釧路湿原の変遷、価値）
教科学習と湿原との関連性についてのワークショップ
 - ・講師：新庄久志氏（釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員）
 - ・主催：環境教育ワーキンググループ
- 第 2 回 研修講座「環境教育 ～自然再生を考える調査と森づくり体験」
- ・実施日時：2010 年 9 月 9 日（木）10 時集合 16 時解散
 - ・参加教員：釧路市内および標茶町内の小学校、中学校教員 7 名
 - ・実施内容：自然再生事業実施現場における調査体験（達古武地区湿原再生事業地）
（野ネズミ・地表性昆虫・魚類・水生昆虫調査、シードトラップ設置等）
 - ・企画・案内：さっぽろ自然調査館
 - ・主催：環境省自然環境事務所、環境教育ワーキンググループ

2 講座ともに釧路教育研究センター共催（同センターの教員研修講座）にて実施。

(2) アンケート回収結果

第1回 研修講座

- 湿原の教育的な価値をどのように考えるか -

- ・身近なところに、様々な要素（教科にしても、環境学習にしても）を持っているものがあるということ。釧路市内からも近い。 小学校教諭
- ・地域の一員として、湿原を実感すること。 小学校教諭
- ・いろいろな角度から取り上げられると思う。 小学校教諭
- ・子供達の身近にあること。どの教科からでも教材として考えることができること。
小学校教諭
- ・子供達が、釧路に誇りを持っている大人に育ってくれる一因。 中学校教諭
- ・いろいろな教科に価値が広がっている点。 中学校教諭

- 湿原を題材とした学習について考えられる実施内容 -

- ・今すぐ、どの教科単元と結びつけられるか思い浮かばない。今年度の計画もある。この先取り組めるよう考えていきたい。 小学校教諭
- ・実際に行ったが、湿原の乾燥化のため排水路を造り、灌漑していること。JRを使い、湿原駅から大観望へ行き、湿原の全体を見る活動を行った。 小学校教諭
- ・先日、国語の単元で「埋め立て地」についてディベートを行ったので、今度は「湿原」の動植物（外来種等々）をお題としてディベートをしてみたい。理科ともからめられるかもしれない。実態を知る1時間、ディベート1時間、計2時間くらいだと、上手く時間を作れば可能かと思った。 小学校教諭
- ・美術の時間での作品制作（風景画やデザインなど）。国語の時間での地域や身近なものを題材とする創作や、意見をまとめる課題など。 中学校教諭
- ・文化祭での壁新聞の記事として。理科の学習に活用。 中学校教諭

第2回 研修講座

- 授業の参考になりそうな事、やってみたいと思った事 -

- ・ネズミの捕獲。 中学校教諭
- ・育苗。学校のまわりの生き物をトラップを使って調べてみたいと思った。 小学校教諭
- ・捕獲やエサの持ち去り実験。出来る範囲でやってみたい。 中学校教諭
- ・本校に池公園があるのでトラップによる水棲動物の捕獲は可能かと思う。 小学校教諭
- ・近くに川があるので、トラップで水棲動物を捕獲してみたい。 小学校教諭
- ・生物の捕獲の仕方は参考になった。子ども達でもできそうなので、今度やってみたい。
小学校教諭
- ・市内の学校なので、野ネズミ捕獲は難しいと思う。学校の周辺の樹木のタネを育ててみようかと思う。 中学校教諭

(2) アンケート回収結果は、参考資料1-3より一部を抜粋。

3 湿原を題材とした学習と教科学習との関連性の整理

(1) これまでの経緯

環境教育ワーキンググループでは、釧路管内の学校における環境教育や湿原を題材とした学習の調査、実践校および学校と連携可能な施設や団体の情報収集とホームページによる情報発信、教員対象の研修講座等を行ってきた。湿原を題材とした実践校では、総合的な学習の時間を主に利用して行っているが、平成 23 年度から小学校において、平成 24 年度から中学校において本格施行される新学習指導要領では、総合的な学習の時間が大幅に縮小するなど、総合的な学習の時間における湿原学習の実施はより難しい状況となってきた。

これらの状況を鑑み、第 6 回環境教育ワーキンググループにおいて、今後の活動方針として、教科内における湿原を題材とする学習の価値を検討し、展開の可能性を探ることとした。

(2) 教科単元における学習の位置づけ

釧路湿原は地域社会、産業、生物などと非常に多様な関係性を有していることから、教科単元において、きっかけづくりや発展学習の素材としての可能性を有していると考えられる。また、総合的な学習の時間で扱う湿原学習と比して教科学習においては主題として湿原を扱うことが難しい反面、湿原に関係した情報に触れる機会を学校教育の中で増やしていくことで、児童や教員の釧路湿原に対する関心を喚起することにつながるものと考えられる。

(3) 教育現場からの意見収集

教育現場における活用を前提としていることから、教育委員会、湿原を題材とする学習の実践校、博物館等の施設へヒアリングを行い、教科学習において学習素材として湿原の活用を促進するにあたっての可能性と課題点について情報収集を行った。

表 2 . ヒアリング先一覧 (順不同)

ヒアリング先	ヒアリングの目的
釧路教育研究センター	教科学習で湿原を取り扱うにあたっての可能性や方向性、配慮すべき事項、課題点等についての意見の収集。
釧路市教育委員会 (指導主事室)	
標茶町教育委員会 (指導主事室)	
釧路町教育委員会 (指導主事室)	
釧路市立青葉小学校	
釧路市立鶴野小学校	
釧路町立富原小学校	
標茶町立標茶小学校	
林野庁北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	学校の対応状況、教科単元の素材として湿原に関する情報やプログラムを学校に提供するにあたって、協力いただける可能性について相談。
釧路市立博物館	
標茶町郷土館	
塘路湖エコミュージアムセンター	